No.45
TOKYO
サンバ通信
2025年9月1日発行　通巻85号

東京都委託事業
「助産所と嘱託医療機関等連携支援事業について」

専務理事　青柳三代子

医療法第19条による出産を取り扱う助産所の開業には妊産婦さんの安全のために産婦人科を標榜した嘱託医との契約が必要になります。

私達助産師は、生理的な経過を大切にした自然分娩を取り扱っています。一人一人の妊産婦の思いを受けて体の状況や心理的な状況を把握しながら、母児共に安全・安心な出産をしてもらい、育児へのスムーズな導入、退院後の自宅での育児に自信をもって取り組めるよう、継続的な助産師ケアを提供します。

そんな中で医療介入が必要となった場合に、できるだけ母児に負担の無いような搬送の機会を見定めて、医師に処置をお願いする必要があることから、バックアップしてくださる嘱託医・嘱託医療機関はとても大切です。

なかなか嘱託医が見つからないために、一つの医療機関・一人の医師が何十か所もの助産所と契約を結んで助産所で出産を希望するママや家族を支えてくださっている現状があります。助産所から離れた医師や医療機関にお願いするしかない状況の中で、どうにかできないものか?と政策提言委員会として、要望書に毎年「東京都が地域ごとに嘱託医を決めていただきたい」と申し入れていますがなかなか実現に至らない状況です。

令和5年4月から東京都の委託事業が始まり、開業相談窓口の設置と調査の二本柱で2年間実施してきました。

令和5年度、助産所部会では東京都内の開業助産師にアンケートを実施し、出産の取り扱い意向や課題、取り扱わない理由などを調査しました。出産を取り扱いたい助産所の数と対応する必要の有無を見極める目的がありました。

令和6年度は、新たな嘱託医獲得のヒントを得ることを目的とし、現在嘱託医・嘱託医療機関としてご協力いただいている医師の方々にヒアリングを行い、共通するキーワードを分析しました。入院施設を持たない診療所2か所、入院施設のある診療所6か所、病院4か所に出向いてヒアリングを実施しましたが、このとき、助産所部会委員のご協力をいただきました。今年度は、昨年度のヒアリング内容を嘱託医の先生方に共有するとともに、「嘱託医を受けている医師・施設同士で意見交換をしたい」とのご希望が寄せられたことから、9月下旬にZoomによるグループヒアリング①の開催を予定しています。

グループヒアリング①に参加してくださった医師の皆様にアンケートを行い、現在嘱託を受けていない医師・医療機関とのグループヒアリング②へとつなげ、嘱託医の現状を広く知っていただく機会を令和8年2月頃に開催する予定です。

加えて、参加医師・医療機関からのアンケート結果をもとに、嘱託医の拡大に向けた調査を継続してまいります。

開業助産師にとって嘱託医問題はまだまだ解決を見ることができない状況にありますが、調査の機会をいただきましたので、今後も引き続き希望をもって取り組んでいきたいと思います。

2025 年度 公益社団法人東京都助産師会 記念式典・第 1 回定時社員総会報告

理事　荒 慶子

令和 7 年度 公益社団法人東京都助産師会 記念式典・定時社員総会は、令和 7 年 6 月 14 日（土）13 時より、東京都助産師会館 5 階講堂にて開催された。当日は、社員総数 1,147 名のうち、委任状を含む 682 名が出席した。

【記念式典】

式典に先立ち、物故会員のご冥福をお祈りし、黙祷が捧げられた。

宗会長から開会の挨拶があり、続いて 3 名の来賓の方より祝辞をいただいた。

東京都福祉局子供･子育て支援部調整担当課長の和田栞氏は、ご自身の出産、子育ての経験も交えながら、「助産師に望まれること、期待されることはますます大きくなっている」と話された。妊娠期から専門職が関わることで、出産・育児に対する不安の軽減につながり、切れ目のない支援が可能になることから、今後も助産師との連携を深めていきたいとの意向が示された。

東京都看護協会会長の柳橋礼子氏より、「看護協会と助産師会が連携しながら活動していくことで、多くの家族の支えになる。今後ますます会を発展させ活動してきたい」との挨拶があった。

日本助産師会副会長の田口真弓氏は、今年度の日本助産師会総会の謝辞とともに、予測を上回る出生数の低下に触れ、助産師の今後の在り方について言及された。また、妊娠期から継続的に寄り添い、見守る包括的な支援の重要性について、改めて強調された。

続いて「永年活動感謝状」が八南地区分会 長濱博子氏、同じく八南地区分会 柳原真知子氏、江東地区分会 柳澤薫氏に日本助産師会副会長 田口真弓氏より授与された。「すくすく赤ちゃん献金感謝状」はおたふく助産院に授与された。

【公益社団法人東京都助産師会令和 7 年度定時社員総会】

定款 18 条 2 項に基づき出席社員の中から議長として橋本初江氏、副議長として三島典子氏、斎藤吏香氏の推薦があり、承認された。議長により総会の開会が宣言され、社員総数 1147 名、委任状を含めた出席社員総数 682 名で、本総会で提出する議案審議するのに必要な数（定款 19 条 1 項：過半数）は満たしていることが報告され議案の審議に入った。

監事の伊藤仁子氏より、本日の定時社員総会に提出されたすべての議案および書類を調査したところ、いずれも法令および定款に適合しており、不当な事項は認められなかった旨の監査報告があった。

＜決議事項＞

宗会長より資料に基づいて報告された。

◎第 1 号議案　令和 6 年度 事業報告

1）理事会・運営会議・地区分会長会議の報告

理事会 8 回、運営会議 2 回、地区分会長会議 5 回開催された。理事会では、事務職員の処遇を、社会保険を適用した正規職員とした。いのちのエデュケーター養成に関して、新規事業を開催。中野区妊婦全員面接事業は、助産師会で事業を受託。小池東京都知事による無痛分娩助成策の表明を受け、3 月末に声明文を提出。この「すべての分娩方式に対し助成を！」という当会の声明に対して SNS 等で賛同の声が上がっている報告もあった。産後ケア推進特別委員会が刷新され新委員が承認された。東京都福祉保健財団助成事業である「伴走型支援」はいずれも好評であった。助成金は終了したが、今後の活動継続については検討したいとの報告があった。

地区分会長会議は、各地域の活動について活発な議論を行った。26 の地区分会があり、それぞれの格差が大きいがその特徴を踏まえ相互に有益な情報交換がされた。

2）専門部会、委員会の報告

【助産所部会】嘱託医に対する調査助成金を利用し、嘱託医に直接調査を行った。各種の医療連携会議への参加・地域の周産期医療施設との連携を図っている。

【施設勤務部会】相互交流を深めるべく活動を行っている。地域活動への参加は困難な状況ではあるが、東京都が行っている助産所への研修事業等を活用されている。

【保健指導部会】安全に助産師業務を遂行できるよう、昨年より業務安全管理評価の自己評価が導入された。本部会は活動が広範囲に渡るため、活動状況の把握と連携には努力を要するところである。インシデント･アクシデント報告の必要性があり、研修会を実施した。

【総務総括委員会】式典の準備および各表彰者の推薦を行った。

【広報委員会】サンバ通信とメルマガの発行、および SNS を活用し情報発信を行っている。昨年度は座談会を年 2 回、災害と産後ケアのテーマで開催した。

【政策提言委員会】東京都および各政党に要望書を、自民党本部には国家予算要望を提出した。こうした活動が功を奏し、東京都との連携が構築され当会に対して意見を求められる関係性となっている。

【教育委員会】東京都委託助産師教育指導講習会を年間 24 回した。内容は充実しており、新規会員加入の動機づけの場ともなっている。NCPR の物品管理も行っている。

【いのちの教育委員会】エデュケーター申請を年 1 回から 2 回とした。研修のオンデマンド配信、見学体制の構築などエデュケーター増員を図るべくシステムを作った。

【助産業務安全対策委員会】分娩件数が減少しているため分娩に関する報告は少ないが、保健指導部会でもインシデント・アクシデント報告できるよう周知した。

【災害対策委員会】対面で東京都委託講習会と交流会を開催した。交流会では東京都の担当課長より講義があり大変有益であった。安否確認を年末に行ったが、参加率は良かった。
【産後ケア特別推進委員会】これまでは研究としての活動であったが、今後は臨床に即したものにすべく体制の刷新を行った。
3）その他の事業の報告
・子育て女性健康支援；昨年度相談 150 件。火曜木曜に電話相談。直接来館する相談者もいる。
・オンライン助産師相談;昨年度相談 1124 件。東京都委託事業。
・パパ向け相談伴走型支援～育休、取って良かった！～；2023 年 10 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日に東京都の助成金事業とし実施し、大変好評であった。プレパパ講座を 17 の地区分会で 18 回開催した。継続については、今後の課題である。
助産師検索サイト「助産師マップ」を作成し、164 名の開業助産師を掲載している。これは、地域・行政からの依頼を受けやすくし、助産師の役割を広く地域に知っていただくものとなっている。
＜会場からの質問・要望＞
◎新中杉分会の平尾社員
「東京都委託事業のオンライン助産師相談の予約状況はどうか。周知活動をしてもよいのではないか。今後相談員募集する予定はあるか。」という質問に対して比嘉理事から、相談件数はこの 5 年間一定の割合（予約可能な枠数に対し 70 ～ 90%）であった。まずは、多くの妊産婦に使ってもらい、相談者を地域につなげたい。近くの助産院につなげるよう動いているので、周知活動を一緒にしていただきたい。相談員は今後状況をみて募集をする予定との返答があった。この返答に対し「相談員は、助産師の働き方として助産師の経験値もあがる活動であるため、新しい相談員を入れることも考えて欲しい。」との要望があった。
◎第 1 号議案　令和 6 年度 決算（計算書類）承認の件
比嘉財務理事より、令和 6 年度決算について報告があった。議長は第 1 号議案 2024 年度決算報告に対して採決を行い、賛成多数で承認された。
＜報告事項＞
宗会長より資料に基づいて報告された。
◎報告事項 1　令和 7 年度 事業計画
事業方針には、1）子育て・女性健康支援事業、2）会員福利事業がある。
1）子育て・女性健康支援事業では、「生・性を語るエデュケーター」の制度を運用し、継続的に保育園から小中高校、大学、特別支援学校まで地域の実情に応じて包括的な性教育を実施。非会員にも開かれた講習会では、教育委員会を主体に東京都委託講習会の開催。新生児蘇生講習会（自主事業）の実施。助産所研修は、病院や地域で活動する（非会員を含む）助産師を受け入れ、行う。その他勉強会や講習会の開催。一般市民向け講習会は、各地区分会を独自事業として様々な講習会を開催。産後ケアは、自主事業のほか、多くが受託事業として実施。市民向けイベントの参加は、昨年度までパパ向け講座を助成事業として実施してきたが、自主事業として展開予定である。災害時の母子支援は自主事業として実施する。提言活動を行うことで行政との結びつきが強くなっており東京都の各事業との関わりができている。
2）会員福利事業として、機関紙発行とグッズの販売を行う。
また、5 年計画のビジョンを策定しホームページに掲載しており、このビジョンも念頭に本事業計画を立案したため各々の会員で確認されるよう説明された。
◎報告事項 1　令和 7 年度 収支予算報告
比嘉財務理事より予算について、資料に基づいて説明された。経常収益 87,400,090 円、経常費用 87,309,108 円、正味財産増減額 20,982 円と報告された。昨年度の予算と比較すると、経常収益、経常費用ともに 430 万円ほどの増額がみられている。
＜決議事項＞
第 2 号議案　賛助会員の会費の件
宗会長より、賛助会員の会費の件について総会資料を基に説明がなされた。定款第 5 条、7 条に基づいて、賛助会員の会費区分を変更する。この議案に対し決議が行われ、賛成多数で承認された。
＜会場からの質問・要望＞
◎練馬分会の渡辺社員
「賛助会員にならないと講座などを受けられないなどの制限があるのか」という質問に対し、比嘉理事より制限はないとお答えし、今回の件は対象が法人会員になるため個人会員については特に変更はないことが伝えられた。
◎小平小金井分会の権田社員
「賛助法人会員の数は、何社あるのか教えて欲しい。」との質問に対し、現在 7 社である回答をした。
議長は、以上をもって全議案の審議を終了した旨を告げた。宗会長が本日の謝辞を述べ、総会は 14 時 34 分に閉会した。

「Tokyo Pride 2025」「調布 LGBT　アライの会」の歩み

ゲスト：調布地区分会　棚木めぐみさん
インタビュアー：広報委員　西川直子

すべての人が自分らしく生きやすい街に

この度、広報委員の西川より、初めて参加したレインボーパレード「Tokyo Pride 2025」と、棚木さんのご活動「調布 LGBT ＆アライの会」についてお話をお伺いすることができました。

アライとは、性的マイノリティーの方々の仲間・友人のことです。

【Tokyo Pride 2025 について】

≪棚木さん≫

東京都助産師会がレインボーパレードに参加し始めたのは 2019 年からです。「東京都助産師会の存在をたくさんの方にアピールできるチャンス」と、当時理事をしていたので理事会で投げかけました。はじめはチーム「東京都助産師会（いのちの教育委員会）」としてパレードに出場していましたが、今ではチーム「Medical Pride」（医療従事者とその家族、友人）として出場しています。より大きくなり責任重大！と思いますが、「いのちの平等と尊厳」を伝えています。私たち助産師が赤ちゃんが生まれてきたときに性別を伝える、ということの責任を分かっていることは大切なことだと思っています。最近はジェンダーレスな名前を命名する若い方も増えたと感じます。

≪西川≫

実際道行く人がパレードののぼりを見て「助産師会だって！」「赤ちゃん (人形) 抱っこしてる～」と話す声が何度も耳に届きました。沿道からの応援がとても温かく楽しい時間でした！

【調布 LGBT ＆アライの会について】

≪棚木さん≫

調布 LGBT ＆アライの会は 2021 年に発足しました。毎月講師の方を招いて LGBTQ に関する勉強会を開いたり、政策に関する要望を出したりしています。団体の活動を始めて、調布市にパートナーシップ制度が導入され、多様性社会・男女共同参画推進課という新しい課ができ、専用相談窓口も設置されました。

≪西川≫

一度メールで勉強会に申し込むと、その後は毎月勉強会の案内とアーカイブがメールで届くので、本当にありがたく勉強になっています。私は勉強会が始まった 2022 年からほぼ 8 割くらいはアーカイブを見ることができていると思いますが、講師の方のお話や、勉強会の場で話される質問や感想を聞いて、LGBTQ に関する話題に慣れ、考え方の厚みも増したと感じます。申込フォームではなくて申込はメールでの申込で一人一人に返信するのは大変ではありませんか？

≪棚木さん≫

メールの方が参加者の情報、人柄を把握しやすく、コミュニケーションがしやすいと感じています。今までに申し込んでくださった方は約 1000 人です。助産師や医療従事者からの申込が多く、助産師は勉強熱心だと感じます。LGBTQ の方を含め、学ぶ権利を守るために講座の無料提供には強い想いがあります。全国の方に申し込んでいただけたらと思います。今後の資金調達について、行政からの委託業務、企業とのコラボレーション、助成金申込などの方策を検討しています。

勉強会を続けてきてよかったことは、講師の方と人脈が繋がることです。専門家や弁護士、研究者との人脈が、困難なケースに対処する際に役立つことがあります。この活動を一緒にやってくださる若い方を大募集しています。

「2025.6.8　Medical　Pride チームパレード終了後の集合写真　みんな満面の笑顔！」

第３回座談会開催報告

広報委員（荒・太田・西川・三好・渡辺）

2025 年 7 月 1 日、東京助産師会広報委員会主催による第 3 回「ザ・座談会」 がオンラインにて開催されました。今回のテーマは「伴走型ケア」で、地域の助産師や関係者が集い、実践事例や制度設計の課題について活発な意見交換が行われました。

伴走型ケアについて、WHO は「ポジティブな出産体験のための分娩期ケア」ガイドラインの中で、助産師主導の継続ケアを推奨しています。日本でも「こども未来戦略」の中で「伴走型相談支援」を推進しています　。

当日はゲストに関まりか氏 ((株)MamaWell　代表取締役)、蒲澤直子氏（北地区分会会長）、宗祥子氏（東京都助産師会会長）を迎え、助産師による伴走型支援や継続ケアについて、多角的な意見交換が行われました。

2025 年度から品川区では (株)MamaWell と提携して「オンライン My 助産師」事業がスタートしましたが、関氏からは、腕時計型のウェアラブル端末を使用した、パーソナル助産師によるデータに基づいた母子の健康伴走サポートで、正常経過から逸脱する妊婦を減らすことなどの説明がありました。

蒲澤氏からは、北区役所の保健サービス係で「出産・子育て応援事業」の中の「はぴママたまご面接」「妊娠後期の面談」をコロナ禍をきっかけに北地区分会の助産師が担当していることの説明がありました。

宗氏からは、中野区での妊婦等包括支援事業「かんがるー面接」の事業に勉強会や体制を整えて入札し、参入に至った経緯や、助産師の選定から雇用や整備、教育体制の整備など、すべて助産師会として役割を担っていること、現在は妊娠中期と後期の面談のみであり、妊婦に継続的に寄り添うという伴走型支援に到達するには課題が山積みだが、地域で活動している助産師会のメンバーが主体となって、妊婦に関わる事業を責任をもって引き受けていくことが重要である、等の説明がありました。

議論は白熱し、特に、継続支援の難しさ（行政との調整・提供するケアの質の担保）、対面ケアとオンラインケアの違いや責任・医療施設との連携、地域の助産師との連携などについて意見交換がなされました。その後 4 名ほどの小グループに分かれ座談する時間をつくりました。

終了後、参加者の皆さんから多くの感想をいただきましたので、その一部をご紹介します。

「助産師が考える伴走型支援、継続ケアを具現化できるようにするにはどうしたらよいか、考えさせられました。助産師が起業しデジタルを駆使して My 助産師の仕組みを立ち上げたのは時代に即しておりニーズもあるのだろう。それが地域の助産師と相乗効果となるよう次世代の助産師のあるべき姿が描けるといいなあ」

「先輩方の白熱したご意見を聴く事ができ、参加して良かったです。助産師会が職能団体として、専門性を発揮出来る場が求められるように、お互いに協力し合う重要性を再認識しました。伴走型支援は、行政の形だけの伴走になっているなぁと感じていたので、新しいやり方も含めて、安心できる地域の繋がりや、居場所作りなど構築していきたいと思いました」

「今回の会を機会に色んな世代や環境の助産師が連携して、より良い母子や家族の伴走型支援に繋がる第一歩になったらいいなと思いました。忌憚ない意見がでてて刺激になりました。」

今回の座談会の申込数は過去最多の 56 名にのぼり、妊娠中からの伴走型支援の関心や重要性、新規事業への関心の高さがうかがえました。日本の伝統的な助産所は妊娠・出産・産後を切れ目なく支える貴重な存在ですが、嘱託医問題もあり減少傾向にあります。こうした助産所の継承と若手助産師の育成も非常に大切です。さらに高齢出産などハイリスク分娩が増える中、妊娠期から信頼できる助産師と繋がれる体制づくりも重要です。地域に根ざした母子支援、地域と病院・地域と企業などの連携構築のあり方について、助産師同士が率直な意見を交わし、改めてその実践を見直すきっかけとなる有意義な場となりました。

「医療安全管理室より」

日頃より、医療安全活動へのご理解とご協力ありがとうございます。

今回の「Tokyo サンバ通信から、安全に関する情報やメッセージをお届けするコーナー『助産師あんぜんの小部屋』が始まります。皆様からのインシデントレポート報告を役立てていきます。

第1回目は、「忘れないで！児の預かりには」です。

出産後や産後ケアの際、どうしても児を預かることがあります。その際、短時間でも部屋に児を一人きりにしてはいけないことを忘れないでください。産後ケア事業ガイドラインの安全に関する留意事項にも「短時間であっても児のみの状況とならないよう留意するとともに、児の顔がみえる仰向けに寝かせる」ことが記載されています。特に乳児は自分で寝返りなどしてしまうので危険です。気をつけましょう！

私にとっての助産師会

練馬地区分会　熊井亜矢子

新シリーズ！私にとっての助産師会

助産師会への加入は、地域で助産師として活動するための大切な一歩です。会員の皆さまに、それぞれの入会のきっかけや活動の思い出を通じて助産師会の魅力を語ってもらいます！

～～～～～～～～～～～～

私は2024年に練馬区で熊井助産院を開業し、主にアウトリーチ型の産後ケアを行っています。

私が東京都助産師会に入会したのは9年前に遡ります。それまでは、私は妊娠を機に勤務していた病院を退職し、専業主婦として育児に専念していました。子供が大きくなり、自治体の乳幼児健診のパートを始めた時に、当時の練馬地区分会長にお声がけ頂き、入会をいたしました。入会当初は精力的に活動する先輩方に圧倒されていました。当時は自分の助産師としての技量に自信もなく、助産院を開業することは考えもしていませんでした。

そのような中、3年前より地区分会の災害対策担当をさせていただくことになり、先輩方よりアドバイスをいただきながら、微力ながらも地区分会や地域の方々のお役に立てるよう活動するようになりました。また、子供たちへの性教育の必要性にも興味を感じ、昨年度から性教育の勉強会に参加しています。今年度からの中学生への性教育の一部の教材作成に参加させていただくこととなり、諸先輩方が今まで活動してきた内容や使っている資料を惜しみなく提供してくださり、また作成した教材を丁寧に添削してくださり、とても貴重な経験をすることができました。

このように地区分会で様々な活動をしていく中で、より地域の妊婦さん・産婦さんのために自分自身ができることがあるのではないかと思い、開業することを決断できました。開業を決断するまでも、開業をするまでも、開業してからも地区分会長をはじめたくさんの方にお声がけ頂き、サポートしていただきました。今も産後ケア訪問で担当した方の症例の相談に乗っていただいたりしています。

練馬地区分会は事例検討を行ったり、勉強会を開催したりして、地域の助産師をつなぐ役割を担って下さり、とても心強い存在です。

今後も微力ながら、練馬地区分会や地域の方々のお役に立てるよう頑張っていきたいと思います。

地区分会活動紹介
板橋区／豊島区／文京区

板橋地区分会活動

会長　相賀佳代子

板橋地区分会には21名の会員が所属しています。会員の活動の場は、助産所や医療機関、行政、教育機関と様々です。昨年度から定例会を月に一度に増やし、様々なフィールドで活躍する会員間での情報交換を頻繁に行っています。地区分会の活動として、昨年度は、災害時連携に関する活動として板橋区内の5箇所の避難所運営連絡会に出席し、夜間避難所開設訓練や板橋地区の防災訓練に参加するなどして助産師の存在と活動内容をPRしました。

地域の子育て団体との協働事業では、赤ちゃん食堂や産後ドゥーラ子育てサロンなどに参加して「助産師なんでも相談」を実施しています。自治体からの委託事業では、区内のイベントや、区内の中学校で性教育を実施しました。

今後も会員間の関係性を大切にしながら、助産師としての地域貢献を模索していきたいです。

執筆　渋谷郁恵

豊島地区分会活動

会長　井上茜

豊島地区分会は、保健指導6名　勤務13名、助産所4名の計23名で活動しています。助産師会会員の得意分野を生かし、母子の防災や避難について、外国籍の妊婦ケア、保護者や学生向けの性教育、助産師向けの母乳管理技術講座などを定期的に開催しています。特に区のイベントや女性のための活動に参加しての講座開催は今年4年目を迎え、とても好評を得ています。

今後は、ジェンダーを意識し学生や妊娠前の成人女性への性教育講座や、助産師同士の技術の継承を目的とした研修会などを開催していきたいと思っています。メンバーはそれぞれ開業・勤務のなかで専門性を高めながら、地区分会ではいつも協力し合い少ない準備期間でも質の高いイベントを作り上げています。ぜひ一緒に得意を生かして活動していきましょう。

執筆　横山望美

文京地区分会活動

会長／執筆　古川純子

文京地区分会の会員は45名。

区内の大学病院や総合病院に勤務する助産師、開業助産師、教育に関わる助産師など、さまざまな立場の会員が活動しています。

文京区からは2つの産後ケア事業を受託し、2018年度から「赤ちゃんとママのほっとサロン」を運営。年24回、2つの保健センターで開催し、毎回4名の助産師が担当しています。保健師とのカンファレンスを通して顔の見える関係が築かれ、相談や情報共有がしやすい、安心感のある連携が生まれています。

コロナ禍での対面中止期間は、オンラインでの開催を継続し、昨年度まで委託事業として実施しました。

アウトリーチ型産後ケアでは八千代助産院が窓口となり、受付や担当者の募集、決定、報告書と請求書のとりまとめ・会計を担っています。

定例会や懇親会も続けながら、会員同士のつながりも深まっています。

infomation

表彰者（表彰の正式名称、受賞者氏名　敬称略）

永年活動感謝状

長濱博子（八南）、柳澤薫（江東）、柳原真知子（八南）

公益社団法人日本助産師会会長表彰

石川真由美（江東）、春名めぐみ（文京）、古川純子（文京）

おめでとうございます !!

● **物故会員**　なし

● **会員数**

R7.8.15 現在　1221 名

（会費未納者、今期退会者を含む）

◎年会費の自動引落手続きについて

年会費のお支払いは、指定口座からの自動引落による会費納入が、原則となっております。お手続きがまだの方は、日本助産師会までお問い合わせください。口座引落依頼書をお渡しします。今からお手続きされますと令和 8 年度の会費より自動引落となります。(12 月初旬までにお手続きを完了してください)

年会費のお支払いがまだの方は、　下記にお振込み願います。

※正会員 (一般)　25,000 円 (内訳：本部会費 15,000 円東京都助産師会会費 10,000 円)

※正会員 (特別)　13,000 円 (内訳：本部会費　5,000 円東京都助産師会会費 10,000 円)

【郵便口座】

00170-7-484988 公益社団法人東京都助産師会

※他銀行からお振込みの場合

ゆうちょ銀行　〇一九 (ぜろいちきゅう) 店

当座 0484988

【銀行口座】

◎三井住友銀行　大塚支店　普通 1986476

公益社団法人　東京都助産師会

◎三菱 UFJ 銀行 江戸川橋支店 普通 0031243

公益社団法人 東京都助産師会　代表理事 宗　尚子

重要　住所・職場、改姓等変更がございましたら、必ず日本助産師会の会員ページより会員情報変更フォームより手続きをお願いいたします。

◎今後のセミナー・イベント予定

東京都委託助産師教育指導講習会

今期は 9 月、11 月、12 月、2 月に開催予定。

今回も開催講習会ごとに日時が異なります！

対面講習もあります。(ハイブリットではありません。)

参加の際は確認の上お申し込みください。

また詳細については HP をご覧ください。

申込は東京都助産師会 Coubic　https://coubic.com/jmat 内より受付。

編集後記

サンバ通信45号も東京都助産師会と会員の幅広い活動を報告することができました。日本の出生数は、昨年度70万人を割りました。この少子化時代、助産師にも変化が求められていると感じます。COVID-19で普及したオンライン相談のように、必要としている方に助産師の支援が届けられるよう、柔軟な対応が求められます。助産師会が伝統を守りつつも、お互いの活動を尊重し、協力しあい、よりよい支援を追求し、制度や政策の構築に貢献する職能団体として、助産師を支える。そんな活動を周知する広報誌の作成に関わらせてもらえていることに感謝する真夏のタベです。取材や執筆にご協力いただいた皆様ありがとうございました！

（広報委員　三好）

あたらしい命に、
あたらしい医療の選択肢を。

stemcell
INSTITUTE

ステムセル研究所は、民間臍帯血バンクのパイオニアとして、
再生医療・細胞治療のため安全で高品質な細胞を提供できる体制を整えています。

株式会社 ステムセル研究所　東証グロース上場（証券コード7096）
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目21-19

doula
一般社団法人 ドゥーラ協会
ドゥーラ協会では、産前産後の女性に寄り添い支える
「産後ドゥーラ」の養成および認定を行っています。

産後ドゥーラ養成講座 第34期来春開講！

平日・土日の2コースで開講。23区では受講費助成のある自治体も増えています。助産師資格のある産後ドゥーラには予約が集中しています！ Instagramも発信中。詳細・お問合せは公式HPから！　https://www.doulajapan.com

◆発行　公益社団法人東京都助産師会　〒112-0013　東京都文京区音羽1 - 19 - 18（財）東京都助産師会館2階
TEL:03-5981-3033 FAX:03-5981-3034 <URL>http://www.jmat.jp <e-mail> info@jmat.jp